あおい通信 第78号

第78号 平成23年11月1日
リハビリテーション
デイサービス葵・編集委員会
練馬区東大泉3－17－5
カトウビル3F
電話 03－3978－0919

東京江戸散歩

その三十六 本郷周辺 ⑦

歯磨き粉を売っていた「かねやす」も今は洋品屋に…

写真・文 七海邦夫

かねやす…「本郷もかねやすまでは江戸の内」の川柳で知られる店だ。江戸市中と市外の境界と言われた場所だ。もとは京都で代々天皇の御典医を務めていたが、江戸開府の時家康に請われて江戸に出て来た。口中医師（歯医者）兼安裕悦の時「乳香散」と言う歯磨き粉を売り出したところ、これが売れに売れて一躍有名になった。その後、芝の兼安と元祖争いになったが、町奉行の「芝は漢字本郷は仮名にせよ」との粋な判決が下ってかねやすになったという。もともと本郷の店は、芝の分かれ（分家）だと言われている。芝の店は赤穂浪士の堀部安兵衛が書いた看板を掲げていた。「かねやすゆうけん」と書かれた看板が泉岳寺に保存されている。双方元祖として異議なしと今に伝わるかねやす裁判である。現在本郷三丁目の交差点で洋品店を営む「かねやす」がその店で、江戸時代には本郷通りの東側にあって土蔵蔵造りであった。明治三七年（一九〇四）に電車が開通するのに伴い、今の場所に移った。

弥生式土器…旧加賀藩の大規模な屋敷跡は建築工事などで発掘調査され、構内は弥生式土器発見の地でもある。工学部の弥生門近くに発掘ゆかりの地の碑（弥生町二丁目遺構）が立っている。もう一つ言問い通りにも弥生式土器名称の説明板がある。いずれにしても本郷弥生町で最初に発掘された土器なので弥生式となったのである。

麟祥院と春日局…三代将軍家光の乳母、春日局の菩提寺。麟祥院は春日局の法名。春日局は明智光秀の家臣、斉藤利三の娘だ。稲葉正成に嫁いだ。その後家光の乳母となり、弟を将軍継子とせんとする二代秀忠に対し、大御所家康に直訴する「春日局の抜け参り」をし、家光を将軍にした。この為大奥に絶対的な権力を確立し「お局様」と言われた。屋敷は北の丸田安門内にあり、大名並みの広大なものであった。

この寺は寛永元年（一六二四）、隠居所として創建されたもので、周囲をからたちの垣根で覆ったことから「からたち寺」とも呼ばれた。寺には「絹本着色十六羅漢像」「麟祥院文書、春日局書簡二巻」「春日局像（狩野探幽筆）」など貴重な文化財がある。奥の春日局の墓は、無縫塔（卵塔）で、死後も政道を正す四方に穴が有る。

最後に本郷の老舗を。

岩井佐吉商店…東京で数少ない結納品の店、一三〇年。

いわしや三松…医療機器全般を扱う、一三〇年。

江知勝…御存じ牛鍋の店、一四〇年。

吉川弘文館…出版社、言海、国史大辞典などで有名、一六四年。

明月堂…パン屋、一二〇年。

医学書院…医学雑誌、「簡易医学叢書」「今日の治療指針」一三六年。

高島堂薬局…一四二年、等が有る。

（次回は小石川周辺）

◆編集委員会よりお願いです

「あおい通信」は、皆様からの原稿を募集しています。担当飯島迄お申し出ください。

世評・時評

去る九月二十五日、ノーベル平和賞受賞者ワンガリ・マータイさんが亡くなった。彼女は故郷ケニアの開発で木が切られた時反対運動をし、それをアフリカ全土の植林と、人々を貧困から救う活動に発展させた。彼女の子供の頃は緑が一杯、水遊びができた川もあったそうだ。アフリカの土地は一度木を切ってしまうと、保水力は失われ、灼熱の太陽が土地を焼き不毛にしてしまう。

しかし、翻ってみると、葵の利用者世代が子供の頃、東京はもっと暮らし易かった。それが開発で高層ビルが林立し海風を阻止。その上に、車が排気ガスを、エアコンが熱風を排出したのでは、アフリカの砂漠化と同じ事が‐勿論アフリカの砂漠化は開発のみが原因ではないが‐東京に起きているのではないだろうか。

マータイさんが受賞したノーベル平和賞の創設者アルフレッド・ノーベルは、ダイナマイトの発明者で「死の商人」とも呼ばれた近代武器の開発者でもある。皮肉なことに今そのダイナマイトが世界中で開発を促進し、更には殺傷力の高い武器に使われている。

マータイさんは日本で**「勿体無い」**という言葉を知り、それをリデュース（削減）、リユース（再利用）、リサイクル（再生利用）、リスペクト（尊敬＝自然に対する畏敬や愛）という概念を一言で表す言葉として世界に広めた。我々利用者世代は子供の頃、何かにつけ「勿体無い事をするな」「物を粗末にするとバチがあたる！」と言われて育ったと思う。今のポイ捨てや使い捨て文化を先祖はどう思うだろう。大量生産・大量消費経済の初めの頃、その風潮に疑問を呈したら、**それこそが経済を活性化するもの**と言われた。確かに豊かで便利な生活は快適で、特に年長者にとっては有難い。しかし、子孫に豊かさを残すことも必要だろう。

マータイさんの言うように自然への畏敬を忘れず、限りある資源を有効に使わなければならないと思う。（やぶにらみ）

食物の幸（シリーズ） キッチン担当 （？？）

＜昆布＞

鍋物のおいしい季節となりました。欠かすことが出来ない昆布。ミネラル、食物繊維たっぷりで海の野菜とも言われています。

ダシ用のマコンブは、牛乳の約６倍のカルシウム。ゆで大豆の２倍の鉄分が含まれています。食物繊維はアレルギン酸、フコダインが含まれていて体内の水分を吸収して膨らみ腸の中で増え、排便が促され満腹になります。血糖値を抑え、脂肪、糖質を体外に出し、コレストロールも下げると言われています。

鍋の昆布は捨てずに細切りにして、鰹節、醤油、味噌、酒で佃煮にするといいと思います。

※空き瓶の中に、昆布を細かく切ってひたしておくと、使い勝手が良いですよ。

利用者さんの紹介コーナー

日向　博（木）

絵描きになりたいと思ったのは高校2年生のこと。親友のN君の父親はプロの絵描きで、東京で活躍していました。N君とは非常に仲良く何をするにも一緒でした。私の実家の材木を切り出してスキー板にして遊びました。もう五十年も前のことです。

清水　昭之助（金）

高校の三年間「速記クラブ」でした。日々鍛錬を重ね、一分間に四二〇文字まで書けるようになりました。それを日本語にするには一五分かかりますけど。全国大会にもでたんですよ。

高柳　幸江（金）

何にでもいろいろなことに挑戦したいと思っています。葵ではパソコン、絵手紙、フラワーなどに取り組んでいます。葵の食事は本当においしくてありがたく思っています。

山口　光子（木、日）

手芸が好きでいろいろやっていました。木目込み人形は特に好きで、雛人形などを作りました。今はちょっと流行らないのでは？生け花もやりました。

古藤　静枝（木、土）

自由に外を歩きたいと思っています。「旅の仲間」が、私が元気になるのを待っています。葵では、今まではあまりやったことがなかったビーズなどに挑戦しています。

田村　瑞子（水、木）

手芸が好きです。パッチワークをやっていて、ベッドカバーなど大物も作りました。花の世話も好きで今も、庭に出て楽しんでいます。

雑学

緝田　治夫

今回は、（壱）「東海道中膝栗毛」を書いてみました。いつの世も同じなのでしょう、世の中が平和になり、暮らしに余裕も出てきた江戸時代に入ってからは、庶民も旅を楽しむ事が出来る様になりました。しかし、それには菩提寺が発行した通行手形が必須であって、信仰目的の旅行は幕府も大目に見たので〇〇講という形（例えば「富士講」）で、西国三十三所巡りや、四国八十八箇所巡りなど盛んに行われました。「東海道中膝栗毛」がヒットしてからは物見遊山の旅に出る人も増えました。一番の人気コースはなんといっても「弥次さん喜多さん」でお馴染みのお伊勢参りで、年間総数が数百万人に達する程の集団参詣が行われたともある様です。讃岐の金毘羅宮、安芸の厳島神社、信濃の善光寺、などの人気が高かったようです。

（弐）「東海道中膝栗毛外伝？」膝栗毛で弥次さん喜多さん二人が最初に泊まったのは戸塚宿で、二日目は戸塚宿から小田原まで約四〇㎞、三日目は箱根まで約三〇㎞強を歩いています。平均すると1日約三十三㎞で、かなりの健脚ですね。費用は2食付の旅籠で一泊二〇〇〇文（現在で約五〇〇〇円）、それに昼食代や、わらじ銭などを加えると一日にかかるお金が四〇〇～六〇〇文（現在で約一万～一万五千円）、二〇日間の道中だと八〇〇～一万二千文（約三両前後、現在で二十～三十万円）の出費であって、一般の町人の年収が二〇～三〇両位だから、かなりの出費だったようです。

（次回に続く）

初孫

片岡　龍雄

私は、今年で六十八歳です。二歳になる孫が一人います。一般的にはこの年では二～三人の孫がいるのが普通でしょう。

二年前嫁に行った娘が女子を産みました。所謂外孫です。常日頃から孫は文句なしに可愛いと聞いていましたが、今孫を持ってそれを実感しているところです。現在は生まれる前から男の子か女の子か解るので予想する楽しみはありません。初孫は女の子でしたから可愛さも倍増です。

幸い娘夫妻の住まいは我が家から歩いて十五分程度の「スープが冷めてしまう」距離です。近くにいるので孫の成長を詳細に見ることができます。女房は何かにつけて理由を見つけ一週間に五日は会いに行っています。熱が出たと言って心配し、食欲がない時は好きな魚を煮付けにして持って行き、着せたら可愛いと子供服を何種類も買い込んでいます。

生まれた当初は笑った、寝返りを打った、ハイハイをしたそのことだけで話題になりますが、そのうち歩き出すと今度は怪我をしないかと余計な心配が増えてきます。自分が子供を育てている時はその様な記憶は残っていません。ついこの間、二歳の誕生日をお祝いしましたが、歩き方、喋る内容、考えていることは、まだまだ赤ん坊だと思っていた大人の思いとは異なり、もう子供のそれです。それにしても色んなことで家族のコミュニケーションを豊かにしてくれることは間違いありません。

この様に家族やその周辺を明るく豊かにしてくれる孫が、二～三人増えて、もっと楽しくなればと勝手に願っています。

葵友の会　広報コーナー

9月度行事の結果

歩く会
15日（木）世田谷区立「次太夫堀公園」14名の参加。

カラオケ会
16日（金）「バンバン」にて14名の参加。

役員会
18日（日）葵フロアにて。

10月度行事の結果

カラオケ会
21日（金）「バンバン」にて11名の参加。

ハワイ旅行
1日（土）～6日（木）、14名（スタッフ3名）の参加で、葵友の会初の試み「海外旅行」が無事終了しました。

「事件」は色々有りましたが、良い思い出がたくさん出来ました。

♪この～木なんの木♪…
当然<葵の木>ですよね！？

自画像

ドライバー　五十嵐　喜一

葵にお世話になり、早や半年以上を過ぎようとしています。先輩ドライバーの指導のもと励んでおります。私の唯一の楽しみは月一回程度の中距離のドライブ。友達と先週は房総半島半周へ、来月は日光方面の予定です。

短歌

風さそう　若葉を匂う　森の中
足取り軽く　あおぐ大空
吉野　波な

あおい俳壇

人も絶え　鐘の音も絶え　秋の暮
合風に　腰折る老婆の　赤い傘
りんどうや　千古の青を　湛めていま
富寿郎

たそがれて　茶会の余韻　後の月
街路灯　茶会のあとの　虫時雨
金木犀　黄金（きん）の絨毯　地に展げ（ひろげ）
橋本　廣子

垣根より　鹿現るる　奈良ホテル
夕刊に　遠き人の訃　秋燈（ともし）
畦道で　囲む三時の　布被（きぬかつぎ）
泉　貞子

瓢箪や　七福神に　姿模す
五十嵐　喜一

葵は「心と身体のリハビリ」で元気な「笑顔」を作ります